



コールパークとダイレクトコール

- [コールパークの概要 \(1 ページ\)](#)
- [コールパークの前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [コールパークの設定タスクフロー \(3 ページ\)](#)
- [コールパークの連携動作 \(20 ページ\)](#)
- [コールパークの制約事項 \(21 ページ\)](#)
- [コールパークのトラブルシューティング \(22 ページ\)](#)
- [ダイレクトコールパークの概要 \(23 ページ\)](#)
- [ダイレクトコールパークの前提条件 \(23 ページ\)](#)
- [ダイレクトコールパークの設定タスクフロー \(24 ページ\)](#)
- [ダイレクトコールパークの連携動作 \(29 ページ\)](#)
- [ダイレクトコールパークの制約事項 \(30 ページ\)](#)
- [ダイレクトコールパークのトラブルシューティング \(31 ページ\)](#)

コールパークの概要

コールパーク機能を使用すると、コールを保留にして、Unified Communications Manager システム内の別の電話機（たとえば、別のオフィスの電話機や、会議室の電話機）から取得できます。アクティブコールに対応している場合は、[パーク (Park)] ソフトキーを押すと、そのコールをコールパーク内線番号にパークできます。システム内の別の電話からコールパーク内線番号にダイヤルして、その通話を受けることができます。

コールパーク内線番号として使用するために、単一のディレクトリ番号を定義することも、ディレクトリ番号の範囲を定義することもできます。各コールパーク内線番号にパークできるコールは1つだけです。

コールパーク機能は Unified Communications Manager クラスタ内で機能します。クラスタ内の各 Unified Communications Manager ノードにはコールパーク内線番号が定義されている必要があります。コールパーク内線番号として使用するために、単一のディレクトリ番号を定義することも、ディレクトリ番号の範囲を定義することもできます。電話番号または番号範囲が一意であることを確認します。

ユーザは、割り当てられているルートパターン（例：クラスタ間トランクのルートパターンは80XX）とコールパーク番号（例：8022）にダイヤルし、別の Unified Communications Manager クラスタからパークされているコールを取得できます。コーリングサーチスペースとパーティションが正しく設定されていることを確認する必要があります。コールパークはクラスタ間で機能します。

有効なコールパーク内線番号は、整数とワイルドカード文字 X からなります。コールパーク内線番号には最大で XX を設定できます（例：80XX）。これにより、最大 100 件のコールパーク内線番号を提供できます。コールがパーク中になると、Unified Communications Manager は次に使用可能なコールパーク内線番号を選択し、電話にその番号を表示します。

パーク モニタリング

パーク モニタリングは、タイマーが期限切れになるまで Cisco Unified Communications Manager がパークされたコールのステータスをモニタする、オプションのコールパーク機能です。タイマーが期限切れになると、コールは事前に設定されている番号に転送されるか、ボイスメールに送信されるか、またはコールのパーク元に戻ります。パーク モニタリングは電話回線とハントパイロットに適用できます。

コールパークの前提条件

クラスタ間でコールパークを使用する場合は、パーティションとコーリングサーチスペースを設定しておく必要があります。

表 1: パークソフトキーテンプレートとコールパークボタンテンプレートをサポートしている *Cisco Unified IP Phone*

電話機のモデル	ソフトキーテンプレートでのサポート	電話ボタンテンプレートでのサポート
Cisco Unified IP Phones 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)	X	X
Cisco IP 電話 7800 シリーズ	X	X
Cisco Unified IP Phones 7900 シリーズ (7921、7925、7936、7937 を除く)	X	
Cisco IP 電話 8800 シリーズ	X	X
Cisco Unified IP Phones 8900 シリーズ	X	X
Cisco Unified IP Phones 9900 シリーズ	X	X

電話機のモデル	ソフトキー テンプレートでのサポート	電話ボタン テンプレートでのサポート
Cisco Unified IP Phones 7900 シリーズ (7906、7911、7921、7925、7936、7937 を除く)		X



(注) プログラム可能な回線キー機能を使用して、回線1以外のすべての回線またはボタンでコールパークを設定できます。

コールパークの設定タスクフロー

始める前に

- [コールパークの前提条件 \(2 ページ\)](#) を確認してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クラスタ全体のコールパークの設定 (4 ページ)	(オプション)。クラスタ全体のコールパークを設定するか、ステップ 3 の手順を使用してクラスタ内のサーバにコールパークを設定します。
ステップ 2	コールパークのパーティションの設定 (5 ページ)	コールパーク番号を追加するためのパーティションを作成します。
ステップ 3	コールパーク番号の設定 (6 ページ)	クラスタ内のサーバでコールパークを使用するためのコールパーク番号を設定します。
ステップ 4	コールパークのソフトキー テンプレートの設定 (9 ページ)	ソフトキー テンプレートに [パーク (Park)] ソフトキーを追加します。
ステップ 5	共通デバイス設定とソフトキー テンプレートの関連付け (10 ページ) を行うには、次のサブタスクを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> • 共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加 (11 ページ) • 電話機と共通デバイス設定の関連付け (12 ページ) 	オプション。ソフトキー テンプレートを電話で使用できるようにするには、この手順か次の手順のいずれかを実行する必要があります。システムが [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従います。これは、電話機でソフト

	コマンドまたはアクション	目的
		キー テンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。
ステップ 6	電話機とソフトキーの関連付け (12 ページ)	オプション。 次の手順は、ソフトキー テンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替手段として、または共通デバイス設定と共に使用します。 ソフトキー テンプレートを適用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーの割り当てを上書きする必要がある場合は、次の手順を共通デバイス設定と共に使用します。
ステップ 7	コールパーク ボタンの設定 (13 ページ) を行うには、次のサブタスクを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> • コールパークの電話ボタンテンプレートの設定 (13 ページ) • 電話機とボタンテンプレートの関連付け (13 ページ) 	
ステップ 8	パーク モニタリングの設定 (14 ページ)	次のオプションのタスク フローを実行して、コールパークの設定にパーク モニタリングを追加します。

クラスタ全体のコールパークの設定

手順

ステップ 1 [System (システム)] > [Service Parameters (サービス パラメータ)] を選択します。

ステップ 2 目的のノードを[サーバ (Server)]、サービスを[Cisco CallManager] (アクティブ) として選択します。

ステップ 3 詳細設定をクリックします。

詳細サービスパラメータがウィンドウに表示されます。

ステップ 4 クラスタ全体のパラメータ (機能 - 全般) セクションで、**クラスタ全体のコールパーク番号/範囲の有効化を True** に設定します。

デフォルト値は [False] です。 このパラメータは、コールパーク機能をクラスタ全体に適用するか、または特定の Unified CM ノードに制限するかを決定します。

ステップ 5 Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されているクラスタ内の各サーバに対して、**コールパーク表示タイマー**を設定します。

デフォルトは 10 秒です。このパラメータでは、コールをパークした電話機でコールパーク番号を表示する時間を決定します。

ステップ 6 Unified Communications Manager サービスとコールパークが設定されているクラスタ内の各サーバに対して、**コールパーク復帰タイマー**を設定します。

デフォルトは 60 秒です。このパラメータでは、コールをパーク状態に維持する時間を決定します。このタイマーの期限が切れると、パークされたコールは、コールをパークしたデバイスに戻されます。ハントグループメンバーがハントパイロットを通じて着信したコールをパークした場合、そのコールはコールパーク復帰タイマーの期限が切れた時点でハントパイロットに戻されます。

(注) コールパーク表示タイマーよりも小さな値をコールパーク復帰タイマーに入力した場合は、コールパーク番号が電話機に表示されないことがあります。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

ステップ 8 すべての Unified Communications Manager と CTI Manager サービスを再起動します。

コールパークのパーティションの設定

パーティションを設定して、電話番号 (DN) の論理グループと、到達可能性の特徴が類似したルートパターンを作成します。パーティションを作成することで、ルートプランが組織、場所、コールタイプに基づいた論理サブセットに分割されることになり、コールルーティングが容易になります。複数のパーティションを設定できます。

始める前に

(オプション) [クラスタ全体のコールパークの設定 \(4 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。**コールルーティング > コントロールのクラス > パーティション**。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。

ステップ 3 [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。

パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。

説明にはどの言語でも最大 50 文字まで指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサイド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。

説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。

ステップ 5 複数のパーティションを作成するには、各パーティションエントリごとに 1 行を使います。

ステップ 6 [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。

スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。

ステップ 7 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。

- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
- [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。

ステップ 8 [保存] をクリックします。

コールパーク番号の設定

クラスタ内の複数のサーバにわたってコールパークを使用する場合は、各サーバにコールパーク内線番号を設定する必要があります。

各コールパーク電話番号、パーティション、および範囲が Unified Communications Manager 内で固有であることを確認してください。登録 Unified Communications Manager されているデバイスごとに、固有のコールパークディレクトリの番号と範囲が必要です。Cisco Unified Communications Manager Administration コールパークの設定に使用するコールパークの番号または範囲を検証しません。無効な番号や範囲、また重複の可能性がある範囲を特定するには、Unified Communications Manager 着信番号アナライザツールを使用します。

始める前に

[コールパークのパーティションの設定 \(5 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コールパーク (Call Park)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- 新しいコールパーク番号を追加するには、[新規追加] をクリックします。
- コールパーク番号をコピーするには、コールパーク番号または番号の範囲を検索して、[コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- コールパーク番号を更新するには、コールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[コールパーク番号の設定 (Call Park number configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [コールパークの設定 (Call Park configuration)] フィールド内の各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[コールパーク設定フィールド \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 4 新しいコールパーク番号や変更したコールパーク番号を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

コールパーク設定フィールド

フィールド	説明
[コールパーク番号/範囲(Call Park Number/Range)]	<p>コールパーク内線番号を入力します。数字またはワイルドカード文字 X を入力することもできます（1つまたは2つの X を使用できます）。たとえば、5555 と入力して 5555 という1つのコールパーク内線番号を定義するか、または 55XX と入力して 5500 ～ 5599 のコールパーク内線番号の範囲を定義します。</p> <p>(注) 1つのコールパーク範囲の定義で、最大100のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号が一意になっていることを確認します。</p> <p>(注) Unified Communications Manager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Unified Communications Manager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p> <p>(注) コールパーク範囲は、コールの発信元のサーバのリストから選択されます。たとえば、電話機 A（ノード A に登録）が電話機 B（ノード B に登録）にコールし、電話機 B のユーザが [パーク(Park)] を押した場合、電話機 B ではノード A に存在する CSS のコールパーク範囲が必要になります。マルチノード環境では、電話およびゲートウェイがさまざまなノードと通信し、発信元のサーバを問わずコールのパークが必要になる場合があるため、電話機にはすべてのサーバからのコールパーク範囲が含まれている CSS が必要です。</p>

フィールド	説明
説明	このコールパーク番号に簡単な説明を付けます。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (“ ”)、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (<>) は使用できません。
パーティション	パーティションを使用してコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストから必要なパーティションを選択します。コールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに対して [None] を選択します。 (注) コールパーク内線番号とパーティションの組み合わせが、Unified Communications Manager内で固有であることを確認してください。
Unified Communications Manager	ドロップダウンリストを使用して、これらのコールパーク番号を適用する Cisco Unified Communications Manager を選択します。

コールパークのソフトキー テンプレートの設定

以下の手順を使用して、パーク ソフトキーを使用できるようにします。

パーク ソフトキーには次のコール状態があります。

- オンフック (On Hook)
- 発信 (Ring Out)
- 接続転送 (Connected Transfer)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]。
- ステップ 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- a) [新規追加] をクリックします。
 - b) デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。

c) [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。

d) **[保存]** をクリックします。

ステップ 3 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、次の手順を実行します。

a) [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。

b) 必要な既存のテンプレートを選択します。

ステップ 4 [デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。

(注) あるソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。

ステップ 5 右上隅にある **[関連リンク (Related Links)]** ドロップダウンリストから **[ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)]** を選択し、**[移動 (Go)]** をクリックします。

ステップ 6 [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウンリストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。

ステップ 7 [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 8 追加のコール状態でのソフトキーを表示するには、前述のステップを繰り返します。

ステップ 9 **[保存]** をクリックします。

ステップ 10 次のいずれかの作業を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、**[設定の適用 (Apply Config)]** をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加」と「電話機のセクションとソフトキーテンプレートの関連付け」を参照してください。

共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け

(オプション) ソフトキーテンプレートを電話機に関連付ける方法は2つあります。

- ソフトキーテンプレートを **[電話の設定 (Phone Configuration)]** に追加します。
- ソフトキーテンプレートを **共通デバイス設定** に追加します。

ここに示す手順では、ソフトキーテンプレートを **共通デバイス設定** に関連付ける方法について説明します。システムが **共通デバイス設定** を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、「電話機とソフトキーテンプレートの関連付け」のセクションを参照してください。

手順

-
- ステップ1 [共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加 \(11 ページ\)](#)
 - ステップ2 [電話機と共通デバイス設定の関連付け \(12 ページ\)](#)
-

共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加

手順

-
- ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
 - ステップ2 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキーテンプレートを関連付けるには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
 - a) [新規追加] をクリックします。
 - b) [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
 - c) [保存] をクリックします。
 - ステップ3 既存の共通デバイス設定にソフトキーテンプレートを追加するには、次の手順を実行します。
 - a) [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - b) 既存の共通デバイス設定をクリックします。
 - ステップ4 [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキー テンプレートを選択します。
 - ステップ5 [保存] をクリックします。
 - ステップ6 次のいずれかの作業を実行します。
 - すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
 - 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。
-

電話機と共通デバイス設定の関連付け

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、ソフトキーテンプレートを追加する電話デバイスを選択します。
- ステップ 3 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキーテンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。
- ステップ 4 [保存] をクリックします。
- ステップ 5 [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。

電話機とソフトキーの関連付け

(オプション) ソフトキーテンプレートを共有デバイス設定に関連付ける代わりに、この手順を使用します。この手順は、共通デバイス設定とともに機能します。共有デバイス設定での割り当て、またはその他のデフォルトのソフトキー割り当てをオーバーライドするソフトキーテンプレートを割り当てる場合に、この手順を使用できます。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、ソフトキーテンプレートを追加する電話を選択します。
- ステップ 3 [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキーが含まれているテンプレートを選択します。
- ステップ 4 [保存] をクリックします。
- ステップ 5 [リセット (Reset)] を押して、電話機の設定を更新します。

コールパーク ボタンの設定

コールパークの電話ボタン テンプレートの設定

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone button template)] の順に選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、サポートされる電話テンプレートのリストを表示します。
- ステップ 3** 新しい電話ボタン テンプレートを作成する場合は、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- 電話機モデルのデフォルトのテンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [電話ボタンテンプレート情報 (Phone Button Templates Information)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - [保存] をクリックします。
- ステップ 4** 既存のテンプレートに電話ボタンを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 既存のテンプレートを選択します。
- ステップ 5** [回線 (Line)] ドロップダウン リストから、テンプレートに追加する機能を選択します。
- ステップ 6** [保存] をクリックします。
- ステップ 7** 次のいずれかの作業を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
 - 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。
-

電話機とボタン テンプレートの関連付け

始める前に

[コールパークの電話ボタンテンプレートの設定 \(13 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、設定済みの電話のリストを表示します。

ステップ3 電話ボタンテンプレートを追加する電話を選択します。

ステップ4 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストで、新しい機能ボタンが含まれる電話ボタンテンプレートを選択します。

ステップ5 [保存] をクリックします。

電話の設定を更新するには[リセット (Reset)]を押すというメッセージ付きのダイアログボックスが表示されます。

パーク モニタリングの設定

次のオプションタスクを実行して、コールパーク設定にパーク モニタリングを追加します。

始める前に

パーク モニタリングは、コールパークをサポートする電話のサブセットでのみサポートされます。次の Cisco Unified IP Phone は、パーク モニタリングをサポートしています。

- Cisco IP 電話 8811
- Cisco IP 電話 8841
- Cisco IP 電話 8845
- Cisco IP 電話 8851
- Cisco IP 電話 8851NR
- Cisco IP 電話 8861
- Cisco IP 電話 8865
- Cisco IP 電話 8865NR
- Cisco Unified IP 電話 8961
- Cisco Unified IP 電話 9951
- Cisco Unified IP 電話 9971

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	パーク モニタリングシステムタイマーの設定 (15 ページ)	パーク モニタリング機能のシステムレベルのタイマーを設定します。
ステップ2	ハントパイロットのパーク モニタリングの設定 (16 ページ)	オプション。 ハントパイロットを展開している場合は、ハントパイロットにパーク モニタリングの接続先を割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	電話番号のパーク モニタリングの設定 (17 ページ)	個々の電話回線のパーク モニタリングの接続先を割り当てます。
ステップ 4	ユニバーサル回線テンプレートを使用したパーク モニタリングの設定 (18 ページ)	LDAP ディレクトリ同期を設定していると、パーク モニタリングが設定されている複数のユーザの電話番号設定のプロビジョニングにユニバーサル回線のテンプレートを使用できます。

パーク モニタリング システム タイマーの設定

パーク モニタリング機能のシステム レベルのタイマーを設定するには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシュ ノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4 次のサービス パラメータの値を設定します。

- [パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)] : パークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数。個々の電話回線では、この設定は、[電話番号の設定] ウィンドウの同じ設定によりオーバーライドされます。コールパーク復帰タイマーの期限が切れると、コールはハントパイロットに転送されます。
- [パーク モニタリング定期復帰タイマー (Park Monitoring Periodic Reversion Timer)] : コールがパークしたときに復帰を試行する秒数。Cisco Unified Communications Manager は、パークしたユーザの電話を鳴らしたり、ビープ音を再生したり、点滅させたりすることでユーザにパークしたコールについて求めます。パークモニタリング復帰タイマーの期限が切れると、コールはハントパイロットではなく、パークされた相手側に転送されます。
- [パーク モニタリング転送非取得時のタイマー (Park Monitoring Forward No Retrieve Timer)] : パークアラーム通知が発生するまでの秒数。その後、パークされたコールは、コールをパークしたユーザが [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] で指定した未取得時のパーク モニタリング転送の接続先に転送されます。パークモニタリング転送復帰タイマーが期限切れになると、コールはハントパイロットに転送されます。

(注) これらのフィールドの詳細については、サービス パラメータのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ5 [保存] をクリックします。

次のタスク

これらのオプションのいずれかのタスクを使用して、個々の電話回線およびハントパイロットでの期限切れのタイマーの処理方法を指定します。

- [ハントパイロットのパーク モニタリングの設定 \(16 ページ\)](#)
- [電話番号のパーク モニタリングの設定 \(17 ページ\)](#)
- [ユニバーサル回線テンプレートを使用したパーク モニタリングの設定 \(18 ページ\)](#)

ハントパイロットのパーク モニタリングの設定

展開でハントパイロットを使用している場合は、このオプションの手順を使用して、ハントパイロットにパーク モニタリングの接続先を割り当てます。



(注) ハントパイロットの設定の概要については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)の「ハントパイロットの設定」の章を参照してください。

始める前に

[パーク モニタリング システム タイマーの設定 \(15 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**ルート/ハント (Route/Hunt)**] > [**ハントパイロット (Hunt Pilot)**] の順に選択します。
 - ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、パーク モニタリングの接続先を設定するハントパイロットを選択します。
 - ステップ 3** [パーク モニタリング非取得時の接続先 (Park Monitoring No Retrieve Destination)] フィールドで、[接続先 (Destination)] の電話番号と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を割り当てます。
 - ステップ 4** [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

電話番号のパーク モニタリングの設定

個々の電話回線でパーク モニタリングの接続先を割り当てるには、次の手順を使用します。コールを別の番号に転送したり、ボイスメールに送信したり、コールのパーク元に戻したりすることができます。



(注) 次のツールは、複数の電話回線の設定をプロビジョニングすることができます。

- ユニバーサル回線のテンプレートを使用して、LDAPディレクトリの同期によって、複数の電話回線のパーク モニタリング設定をプロビジョニングします。詳細については、[ユニバーサル回線テンプレートを使用したパーク モニタリングの設定 \(18 ページ\)](#) を参照してください。
- 一括管理ツールを使用して、多数の電話回線の設定を含む CSV ファイルをインポートします。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド](#)を参照してください。

始める前に

[パーク モニタリング システム タイマーの設定 \(15 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、設定する電話番号を選択します。

ステップ 3 次の [パーク モニタリング (Park Monitoring)] フィールドに値を入力します。

- [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] : パーク モニタリング転送非取得時のタイマー期限が切れ、パーク先が外部パーティの場合、コールはボイスメールまたは指定した電話番号に転送されます。このフィールドが空の場合、コールはコールをパークした人の回線に転送されます。
- [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] : パーク モニタリング転送非取得時のタイマー期限が切れ、パーク先が内部パーティの場合、コールはボイスメールまたは指定した電話番号に転送されます。このフィールドが空の場合、コールはコールをパークした人の回線に転送されます。
- [パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer)] : この電話回線でパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数。値が 0 または空の場合、Cisco Unified Communications Manager は [パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer)] サービスパラメータの値を使用します。

ステップ 4 [ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウフィールドと設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。で、残りのフィールドを入力します。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ユニバーサル回線テンプレートを使用したパーク モニタリングの設定

ユニバーサル回線テンプレートにパーク モニタリングの設定を割り当てるには、次の手順を使用します。LDAP ディレクトリ同期を設定していると、複数のユーザに設定されたパーク モニタリングの電話番号の設定のプロビジョニングにユニバーサル回線のテンプレート設定を使用できます。

始める前に

[パーク モニタリング システム タイマーの設定 \(15 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ電話/追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)]。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- [検索 (Find)] をクリックし、既存のテンプレートを選択します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。

ステップ 3 セクションを展開し、フィールドに入力します。フィールドの説明については、[ユニバーサル回線テンプレートのパーク モニタリング設定 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

次のタスク

個々の電話番号にユニバーサル回線テンプレートを適用するには、ユーザプロファイル、機能グループテンプレート、およびLDAP ディレクトリ同期にテンプレートを割り当てる必要があります。同期が発生すると、テンプレートの設定は同期の一部である電話回線に適用されます。LDAP の設定については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)の「エンドユーザの設定」の章を参照してください。

ユニバーサル回線テンプレートのパーク モニタリング設定

次の表に、Cisco Unified Communications Manager の [ユニバーサル回線テンプレートの設定 (Universal Line Template Configuration)] ウィンドウの [パーク モニタリング (Park Monitoring)] フィールドを示します。

表 2:ユニバーサル回線テンプレートのパーク モニタリング設定

フィールド	説明
[未取得時の外線コールの転送先 (Forward Destination for External Calls When Not Retrieved)]	<p>コールがパーク保留されている人物が外部の人であり、[パークモニタリング未取得時転送タイマー (Park Monitoring Forward No Retrieve Timer)]が時間切れになると、システムは以下の接続先の1つにコールを送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voicemail)] : ボイスメールプロファイルの設定を使用してコールの送信先を決定します。 • [発信元に戻す (Revert to Originator)] : コールをパークしている人にコールを戻します。 • コールを別の番号に転送するには、テキストボックスに他の番号を入力します。 <p>どのオプションも選択されていない場合、コールはコールをパークしている人に戻されます。</p>
[未取得時の外線コール転送のコーリングサーチスペース (Calling Search Space for Forwarding External Calls When Not Retrieved)]	<p>パーク保留中のコールを設定済みの番号にリダイレクトされるように設定した場合、転送先のコーリングサーチスペースを選択します。</p>
[未取得時の内線コールの転送先 (Forward Destination for Internal Calls When Not Retrieved)]	<p>コールがパーク保留されている人物が内部の人であり、[パークモニタリング未取得時転送タイマー (Park Monitoring Forward No Retrieve Timer)]が時間切れになると、システムは以下の接続先の1つにコールを送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voicemail)] : ボイスメールプロファイルの設定を使用してコールの送信先を決定します。 • [発信元に戻す (Revert to Originator)] : コールをパークしている人にコールを戻します。 • コールを別の番号に転送するには、テキストボックスに他の番号を入力します。 <p>どのオプションも選択されていない場合、コールはコールをパークしている人に戻されます。</p>
[未取得時の内線コール転送のコーリングサーチスペース (Calling Search Space for Forwarding Internal Calls When Not Retrieved)]	<p>パーク保留中のコールを設定済みの番号にリダイレクトされるように設定した場合、転送先のコーリングサーチスペースを選択します。</p>

フィールド	説明
[パークモニタリング復帰タイマー (秒) (Park Monitor Reversion Timer (seconds))]	<p>このタイマーは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。デフォルト値は 60 秒です。</p> <p>(注) タイマーの値に 0 を選択した場合は、このテンプレートを使用する電話回線は [パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer)] のクラスタ全体のサービスパラメータの値を使用します。</p>

コールパークの連携動作

機能	データのやり取り
CTI アプリケーション	CTI アプリケーションはコールパーク機能 (コールパーク DN でのアクティビティのモニタなど) にアクセスします。コールパーク DN をモニタするには、CTI アプリケーションに関連付けられているエンドユーザまたはアプリケーションを、Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザグループに追加します。
保留音	保留音を使用すると、ユーザはコールを保留にして、ストリーミングソースから提供される音楽を再生できます。コールパークの保留音オーディオソースは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ネットワーク保留音オーディオソース (Network Hold MOH audio source)] 設定を設定することによって選択されます。オーディオソースが選択されていない場合、Cisco Unified CM はデバイスプールで定義されているオーディオソースを使用します。デバイスプールでオーディオソース ID が指定されていない場合はシステムデフォルトが使用されます。
ルートプランレポート	ルートプランレポートには、Unified Communications Manager で設定されているパターンと電話番号が表示されます。コールパークに電話番号を割り当てる前に、ルートプランレポートで重複するパターンと電話番号を確認します。
コーリングサーチスペースとパーティション	デバイスのコーリングサーチスペースに基づいて、コールパークアクセスをユーザに限定するため、コールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。

機能	データのやり取り
即時転送	<p>コールパークでは、即時転送（[即転送（iDivert）]または[即転送（Divert）]ソフトキー）がサポートされています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がこのコールをパークするとします。ユーザ B はコールを取得してから、[即転送（iDivert）]または[即転送（Divert）]ソフトキーを押してコールをボイスメッセージングメールボックスに送信することを決定します。ユーザ A はユーザ B のボイスメールグリーティングを受信します。</p>
割り込み	<ul style="list-style-type: none"> • コールパークによる割り込み：相手側の電話（割り込み先の電話）がコールを制御します。割り込み元は、相手側の電話に「ビジーバッグ」します。相手側の電話には、割り込み先であっても、一般的な機能のほとんどが含まれています。したがって、割り込み元は機能にアクセスできません。相手側がコールをパークすると、割り込み元はそのコール（割り込み）を解放する必要があります。 • コールパークによる C 割り込み：相手側と割り込み元がピアとして動作します。C 割り込み機能は会議ブリッジを使用するため、ミーティング会議のように機能します。相手側と割り込み元の両方の電話は、各自の機能に完全にアクセスできます。
ダイレクトコールパーク	<p>コールパークの [パーク（Park）] ソフトキーとダイレクトコールパークの両方を設定しないことが推奨されますが、この両方が設定される可能性があります。この両方を設定する場合は、コールパーク番号とダイレクトコールパーク番号が重複していないことを確認してください。</p>
QSIG クラスタ間トランク	<p>ユーザが QSIG クラスタ間トランクまたは QSIG ゲートウェイ トランクでコールをパークすると、パークされた発信者（パーク対象）に対し、[パーク番号（To parked number）] メッセージは表示されません。電話には引き続き、元の接続番号が表示されます。コールがパークされた場合、コールをパークしたユーザがそのコールを取得できます。コールがパーク状態から取得されると、コールは続行されますが、パークされた発信者に対して新しい接続番号は表示されません。</p>

コールパークの制約事項

機能	制約事項
コールパーク	<p>Unified Communications Manager 各コールパーク内線番号にパークできるコールは 1 つだけです。</p>

機能	制約事項
共有回線	ノード間での共有回線デバイスの場合、デバイスが最初に登録したノードにその回線が登録されます。たとえば、subscriber2のデバイスが最初に登録され、subscriber2とパブリッシャノードで回線が作成されると、その回線はsubscriber2に属します。各ノードでコールパーク番号を設定する必要があります。
バックアップ	フェールオーバーまたはフォールバックを実現するには、パブリッシャノードとサブスクリバノードでコールパーク番号を設定します。この設定により、プライマリノードがダウンすると、回線デバイス関連付けがセカンダリノードに変更され、このセカンダリノードのコールパーク番号が使用されます。
ダイレクトコールパーク	ダイレクトコールパーク（またはコールパーク）が共有回線から開始され、コールがどのデバイスからも取得されない場合、パークされたコールは常に共有回線の受信者（パークしたユーザ）に戻されます。
会議	共有回線とパーク復帰の発信者の間で会議コールが設定されている場合、またはパーク復帰が失敗した場合、（別の共有回線と発信者の間の）2者コールが発生します。これは、パーク復帰ではUnified Communications Managerにより、回線を共有する両方のデバイスにコールが拡大され、両方の参加者（会議にすでに参加している参加者やパーク保留状態の参加者）を会議に追加しようとするためです。参加者が、会議にすでに参加している参加者を最初に追加しようとすると、パーク復帰が失敗します。パーク復帰が失敗しても、共有回線は通常どおりコールに割り込むことができます。
サーバの削除	[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [サーバ (Server)]) で、削除されるノードに Unified Communications Manager のコールパーク番号が設定されていた場合、ノードの削除は失敗します。ノードを削除するには、Cisco Unified Communications Manager Administration でコールパーク番号を削除する必要があります。

コールパークのトラブルシューティング

コールをパークできない

問題

コールをパークできない。[パーク (Park)] ソフトキーまたは機能ボタンを押してもコールがパークされません。

ソリューション

クラスタ内の各 Unified Communications Manager に固有のコールパーク番号が割り当てられていることを確認します。

コールパーク番号に割り当てられているパーティションと電話機の電話番号に割り当てられているパーティションが一致しません。パーティションの詳細については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#) を参照してください。

コールパーク番号の表示時間が短すぎる

問題

コールパーク番号の表示時間が短すぎる。

ソリューション

コールパーク表示タイマーに、より長い時間を設定します。タイマーの詳細については、[クラスタ全体のコールパークの設定 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

ダイレクトコールパークの概要

ダイレクトコールパークは、ユーザが選択し、待機状態になっているダイレクトコールパーク番号に対して、ユーザがコールを転送できる機能です。設定されたダイレクトコールパーク番号は、クラスタ全体に存在します。ダイレクトコールパークのビジーランプフィールド (BLF) をサポートする電話機を設定すると、特定のダイレクトコールパーク番号のビジーステータスおよびアイドルステータスをモニタできます。また、BLF はダイレクトコールパーク番号の短縮ダイヤルとしても使用できます。

Unified Communications Manager が、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは 1 つだけです。パークされたコールを取得するには、設定された取得プレフィックスに続けて、コールがパークされたダイレクトコールパーク番号をダイヤルする必要があります。

ダイレクトコールパークの前提条件

導入環境内の電話でダイレクトコールパークがサポートされていることを確認してください。サポートされている電話のリストを確認するには、Cisco Unified Reporting から [電話機能リスト (Phone Feature List)] レポートを実行し、機能として [処理されたダイレクトコールパーク (Assisted Directed Call Park)] を選択します。詳細については、[電話機能一覧の生成](#) を参照してください。

ダイレクトコールパークの設定タスクフロー

始める前に

- [ダイレクトコールパークの前提条件 \(23 ページ\)](#) を確認してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クラスタ全体のダイレクトコールパークの設定 (24 ページ)	ダイレクトコールパークのクラスタ全体のパラメータを設定します。
ステップ 2	ダイレクトコールパーク番号の設定 (25 ページ)	1つのダイレクトコールパーク内線番号または内線番号の範囲を追加、コピー、更新します。
ステップ 3	BLF/ダイレクトコールパークボタンの設定 (27 ページ)	BLF/ダイレクトコールパークの電話ボタンテンプレートを設定します。
ステップ 4	影響を受けるデバイスとダイレクトコールパークの同期 (28 ページ)	影響を受けるデバイスとダイレクトコールパークの同期

クラスタ全体のダイレクトコールパークの設定

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]。
- ステップ 2** タイマーを設定するには、クラスタ全体のパラメータ (一般機能) セクションの [コールパーク復帰タイマー (Call Park Reversion Timer)] フィールドを更新します。

デフォルトは 60 秒です。このパラメータでは、コールをパーク状態に維持する時間を決定します。このタイマーが期限切れになると、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定した内容に応じて、パークされたコールが元のデバイスに戻るか、指定された別の番号に転送されます。

ダイレクトコールパーク番号の設定

始める前に

ダイレクトコールパーク電話番号、パーティション、および範囲のそれぞれが Unified Communications Manager 内で一意であることを確認します。開始する前に、ルートプランレポートを生成します。また、パークソフトキーが有効になっている場合は（非推奨）、コールパーク番号とダイレクトコールパーク番号の間に重複がないことを確認します。復帰番号が設定されていない場合には、コールパークの復帰タイマーが時間切れになったあと、コールがパーカー（パーキングパーティ）に戻されます。

[クラスタ全体のダイレクトコールパークの設定（24 ページ）](#)

手順

ステップ 1 [コールルーティング（Call Routing）]>[ダイレクトコールパーク（Directed Call Park）]を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- 新しいダイレクトコールパーク番号を追加するには、[新規追加]をクリックします。
- ダイレクトコールパーク番号をコピーするには、ダイレクトコールパーク番号または番号の範囲を検索して、[コピー（Copy）]アイコンをクリックします。
- ダイレクトコールパーク番号を更新するには、ダイレクトコールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[ダイレクトコールパーク番号設定（directed call park number configuration）]ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ダイレクトコールパークの設定（Directed Call Park settings）]領域のフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[ダイレクトコールパークの構成時の設定（26 ページ）](#)を参照してください。

ステップ 4 新しいコールパーク番号や変更したコールパーク番号をデータベースに保存するには、[保存（Save）]をクリックします。

ダイレクトコールパーク番号を更新した場合、Unified Communications Manager は、コールパーク復帰タイマーが期限切れになった後のみ、この番号にパークされたコールを戻します。

ステップ 5 [設定の適用（Apply Config）]をクリックします。

[設定の適用情報（Apply Configuration Information）]ダイアログが表示されます。

ステップ 6 [OK]をクリックします。

ステップ7 BLF を使用してダイレクトコールパーク番号をモニタする場合は、[ダイレクトコールパーク番号設定 (directed call park number configuration)] ウィンドウの [デバイスの再起動 (Restart Devices)] をクリックします。変更通知を使用している場合、この手順はオプションです。

ダイレクトコールパークの構成時の設定

フィールド	説明
番号 (Number)	ダイレクトコールパーク番号を入力します。数字 (0~9) またはワイルドカード文字 ([], -, *, ^, #) と X (1つまたは2つ) を入力できます。たとえば、5555 を入力して1つのコールパーク番号 5555 を定義するか、55XX を入力して 5500~5599 のダイレクトコールパーク内線番号の範囲を定義します。ダイレクトコールパーク番号が固有の番号であり、コールパーク番号と重複しないことを確認します。
説明	このダイレクトコールパーク番号または範囲に簡単な説明を付けます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (<>)、およびタブは使用できません。
パーティション	パーティションを使用してダイレクトコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストから必要なパーティションを選択します。ダイレクトコールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションをデフォルトの [<None>] のままにします。 (注) ダイレクトコールパーク番号とパーティションの組み合わせが Unified Communications Manager 内で一意であることを確認します。
[復帰番号(Reversion Number)]	パークされているコールが取得されない場合にそのコールを戻す番号を入力するか、このフィールドを空白にしておきます。 (注) 復帰番号は、数字だけで構成されます。ワイルドカードは使用できません。
[復帰コーリングサーチスペース(Reversion Calling Search Space)]	ドロップダウンリストを使用して、コーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの [<None>] のままにします。
[取得用プレフィックス (Retrieval Prefix)]	この必須フィールドにはパークされたコールを取得するためのプレフィックスを入力します。パークされたコールを取得する試行とダイレクトパークを開始する試行を区別するための取得用プレフィックスが必要です。

BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定

始める前に

[クラスタ全体のダイレクトコールパークの設定 \(24 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone button template)] の順に選択します。
- ステップ 2** 設定ウィンドウが表示されたら、[関連情報 (Association Information)] ペインの [新規 BLF/ダイレクトコールパークの追加 (Add new BLF Directed Call Park)] リンクをクリックします。
- (注) その電話機に適用された電話ボタンテンプレート、またはデバイスプロファイルが BLF/ダイレクトコールパークをサポートしていない場合、リンクは [関連情報 (Association Information)] ペインに表示されません。
- ステップ 3** [BLF]/[ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] フィールド領域のフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[BLF/ダイレクトコールパークの設定フィールド \(27 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4** 設定が完了したら、[保存 (Save)] をクリックしてウィンドウを閉じます。
- 電話番号は、[電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連情報 (Association Information)] ペインに表示されます。
-

BLF/ダイレクトコールパークの設定フィールド

表 3: BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定フィールド

フィールド	説明
[電話番号 (Directory Number)]	[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウンリストに、Unified Communications Manager データベースにあるダイレクトコールパーク番号が表示されます。 SIP を実行している SCCP または電話機を実行している電話機の場合は、ユーザが短縮ダイヤルボタンを押した時にシステムにダイヤルする番号(および表示されている場合は対応するパーティション)を選択します(3 の場合は 6002 など)。特定のパーティションなしで表示される電話番号は、デフォルトのパーティションに属します。

フィールド	説明
[ラベル (Label)]	<p>BLF/ダイレクトコールパーク ボタンに表示するテキストを入力します。</p> <p>このフィールドは国際化をサポートしています。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムは [ラベルASCII(Label ASCII)] フィールドに表示されるテキストを使用します。</p>
[ラベルASCII(Label ASCII)]	<p>BLF/ダイレクトコールパーク ボタンに表示するテキストを入力します。</p> <p>ASCII ラベルは、[ラベル(Label)] フィールドに入力したテキストの非国際化バージョンを表します。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムはこのフィールドに表示されるテキストを使用します。</p> <p>(注) [ラベル ASCII (Label ASCII)]フィールドに、[ラベル (Label)]フィールドのテキストとは異なるテキストを入力すると、Cisco Unified Communications Manager Administration は、テキストが異なっても両方のフィールドの設定を受け入れます。</p>

影響を受けるデバイスとダイレクトコールパークの同期

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] を選択します。

[ダイレクトコールパークの検索と一覧表示 (Directed Call Parks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

検索条件に一致するダイレクトコールパークの一覧がウィンドウに表示されます。

ステップ 4 該当する複数の電話機を同期させるダイレクトコールパークをクリックします。[ダイレクトコールパーク設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 追加の設定変更を加えます。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

[設定の適用情報 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。

ステップ 8 [OK]をクリックします。

ダイレクトコールパークの連携動作

ダイレクトコールパーク機能との連携動作を次の表で説明します。

機能	データのやり取り
保留音	<p>ダイレクトコールパークの保留音音源は、[デフォルトのネットワーク保留 MOH オーディオ ソース (Default Network Hold MOH Audio Source)] サービスパラメータによって割り当てられます。パラメータを割り当てるには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。 2. [サーバ (Server)] ドロップダウンから、Unified Communications Manager クラスタ ノードを選択します。 3. [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager]を選択します。 4. [クラスタ全体のパラメータ (サービス) (Clusterwide Paramters (Service))] で、MOH オーディオ ソースを [デフォルトのネットワーク保留 MOH 音源 ID (Default Network Hold MOH Audio Source ID)] パラメータに割り当てます。デフォルトは 1 です。 5. [保存] をクリックします。 <p>(注) システムへの MOH オーディオソースの追加の詳細については、このガイドの「保留音の設定」の項を参照してください。</p>
コーリングサーチスペースとパーティション	<p>デバイスのコーリングサーチスペースに基づいて、ダイレクトコールパークアクセスをユーザに限定するため、ダイレクトコールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。</p>
即時転送	<p>ダイレクトコールパークでは、即時転送 ([即転送 (iDivert)] または [即転送 (Divert)] ソフトキー) がサポートされています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がこのコールをパークするとします。ユーザ B はコールを取得してから、[即転送 (iDivert)] または [即転送 (Divert)] ソフトキーを押してコールをボイスメッセージングメールボックスに送信することを決定します。ユーザ A はユーザ B のボイスメールグリーティングを受信します。</p>

機能	データのやり取り
割り込み	<ul style="list-style-type: none"> •ダイレクトコールパークによる割り込み：相手側の電話（割り込み対象の電話）がコールを制御します。割り込み元は、相手側の電話に「ピギーバック」します。相手側の電話には、割り込み先であっても、一般的な機能のほとんどが含まれています。したがって、割り込み元は機能にアクセスできません。相手側がダイレクトコールパークを使用してコールをパークすると、割り込み元はそのコール（割り込み）を解放する必要があります。 •ダイレクトコールパークによるC割り込み：相手側と割り込み元がピアとして動作します。C割り込み機能は会議ブリッジを使用します。これによりミーティング会議と同様に機能します。相手側と割り込み元の両方の電話は、各自の機能への完全なアクセスを維持します。
コールパーク	<p>コールパークの [パーク (Park)] ソフトキーとダイレクトコールパークの両方を設定しないことが推奨されますが、この両方が設定される可能性があります。この両方を設定する場合は、コールパーク番号とダイレクトコールパーク番号が重複していないことを確認してください。</p> <p>ダイレクトコールパーク機能を使用してパークされた発信者（パーク対象）は、パーク中は標準コールパーク機能を使用できません。</p>

ダイレクトコールパークの制約事項

機能	制約事項
ダイレクトコールパーク番号	<p>Unified Communications Manager 1つのパーティが、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは1つだけです。</p> <p>デバイスが ([BLF] ボタンを使用して) モニタするように設定されているダイレクトコールパーク番号は削除できません。ダイレクトコールパーク番号または範囲が使用中であるため削除できないことを通知するメッセージが表示されます。どのデバイスが番号を使用しているかを特定するには、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。</p>
標準コールパーク機能	<p>ダイレクトコールパーク機能を使用してパークされた発信者（パーク対象）は、パーク中は標準コールパーク機能を使用できません。</p>

機能	制約事項
ダイレクトコールパーク機能	転送とダイレクトコールパークの両方のボタンを同時に押さないことを推奨します。この結果、DParkと転送の両方が失敗する可能性があります。
ダイレクトコールパーク BLF	ダイレクトコールパーク BLF は、ダイレクトコールパーク番号範囲をモニタできません。ユーザはダイレクトコールパーク BLF を使用して個々のダイレクトコールパーク番号だけをモニタできます。たとえば、ダイレクトコールパーク番号範囲 8X を設定している場合、ダイレクトコールパーク BLF を使用してその範囲全体 (80 ~ 89) をモニタすることはできません。
SIP を実行している電話のダイレクトコールパーク	次の制約事項は、SIP を実行している電話のダイレクトコールパークに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> ダイレクトコールパークは、SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 と 7960 の [転送 (Transfer)] ソフトキーを使用して起動されます。 SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 と 7960 の [ブラインド転送 (Blind Transfer)] ソフトキーが使用される場合、システムではダイレクトコールパークがサポートされません。 SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 と 7960、および SIP を実行するサードパーティの電話では、システムでダイレクトコールパーク BLF がサポートされません。

ダイレクトコールパークのトラブルシューティング

パークされたコールを取得できない

パークされたコールを取得できません。パークされたコールを取得するためにダイレクトコールパーク番号をダイヤルしたあと、ユーザにビジー トーンが聞こえ、IP Phone に「パークスロットが利用できません (Park Slot Unavailable)」というメッセージが表示されます。

ユーザが取得用プレフィックスに続けてダイレクトコールパーク番号をダイヤルしているかどうかを確認します。

コールをパークできない

コールをパークできない。[転送 (Transfer)] ソフトキー (使用可能な場合は [転送 (Transfer)] ボタン) を押し、ダイレクトコールパークをダイヤルしてもコールがパークされません。

復帰タイマーが時間切れになった後でユーザに対してリオーダー音が再生される

コールパーク番号に割り当てられているパーティションと電話機の電話番号に割り当てられているパーティションが一致していることを確認します。デバイスにパーティションとコーディングサーチスペースが正しく設定されていることを確認します。パーティションの詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

復帰タイマーが時間切れになった後でユーザに対してリオーダー音が再生される

コールをパークできない。復帰タイマーが時間切れになったあと、ユーザにリオーダートーンが聞こえる。

ユーザが、[転送 (Transfer)] ソフトキー (使用可能な場合は [転送 (Transfer)] ボタン) を押してからダイレクトコールパーク番号をダイヤルし、ダイレクトコールパーク番号をダイヤルしたあとにもう一度 [転送 (Transfer)] ソフトキー (使用可能な場合は [転送 (Transfer)] ボタン) を押すか、またはオンフックにしていることを確認します。ダイレクトコールパークは転送機能であるため、ダイレクトコールパーク番号を単独でダイヤルできません。



(注) Transfer On-hook Enabled サービスパラメータを True に設定している場合は、[転送 (Transfer)] ソフトキー (使用可能な場合は [転送 (Transfer)] ボタン) を 2 回押す代わりに、オンフックにするだけで転送が完了します。

ユーザに対してリオーダー音またはアナウンスが再生される

コールをパークできない。[転送 (Transfer)] ソフトキー (使用可能な場合は [転送 (Transfer)] ボタン) を押し、ダイレクトコールパーク番号をダイヤルしたあと、ユーザにリオーダートーンまたはアナウンスが聞こえます。

ダイヤルした番号がダイレクトコールパーク番号として設定されていることを確認します。

ユーザは範囲内の番号にコールをパークできない

ダイレクトコールパーク番号の範囲を設定したあと、範囲内の番号にコールをパークできない。

ダイレクトコールパーク番号の範囲を入力する構文を確認します。構文に誤りがあると、実際には範囲を設定していない場合でも、範囲を設定するように見えます。

パークされたコールの復帰が早すぎる

パークされたコールの復帰が早すぎます。

コールパーク復帰タイマーの設定時間を長くしてください。

パーク スロットが使用できない

コールをパークできない。[転送 (Transfer)] ソフトキー (使用可能な場合は[転送 (Transfer)] ボタン) を押し、ダイレクトコールパーク番号をダイヤルした後、ユーザにビジー トーンが聞こえ、IP Phone に「パーク スロットが利用できません (Park Slot Unavailable)」というメッセージが表示されます。

ダイヤルしたダイレクトコールパーク番号が、パークされたコールでまだ使用されていないことを確認するか、または別のダイレクトコールパーク番号にコールをパークします。

パークされたコールが、コールをパークした番号に復帰しない

パークされたコールが、コールをパークした番号に復帰しない。

ダイレクトコールパーク番号の設定を調べ、別の電話番号ではなく、コールをパークした番号に復帰するように設定されていることを確認します。

番号または範囲が使用中であるため削除できない

ダイレクトコールパーク番号または範囲を削除しようとすると、番号または範囲が使用中であるため削除できないというメッセージが表示される。

デバイスが監視するように設定されている ([BLF] ボタンを使用) ダイレクトコールパーク番号は削除できません。どのデバイスが番号を使用しているかを特定するには、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの[依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。

■ 番号または範囲が使用中であるため削除できない

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。